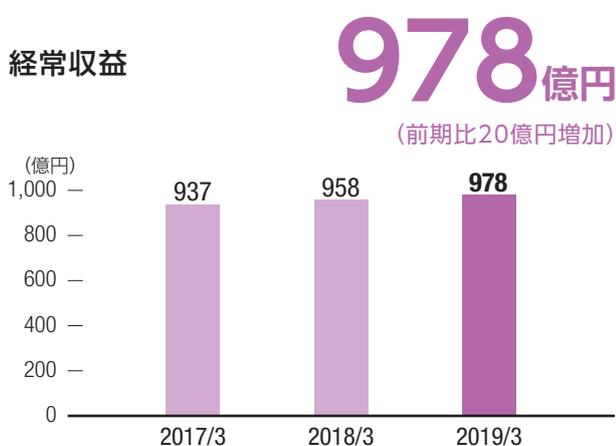


財務ハイライト

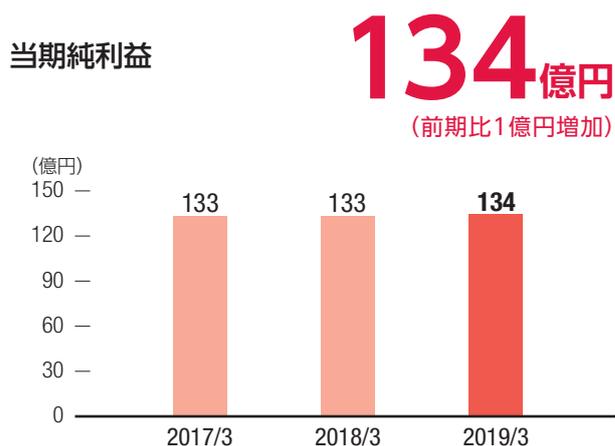
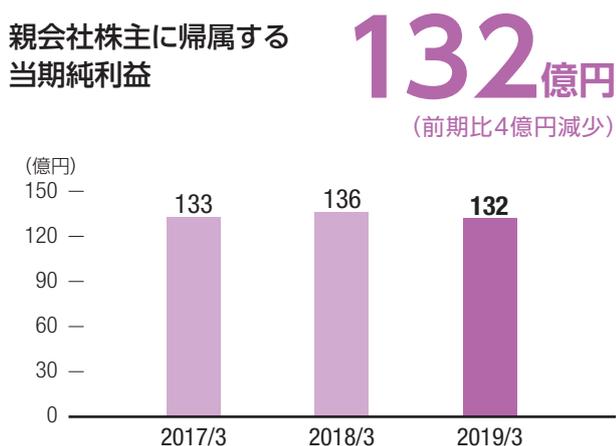
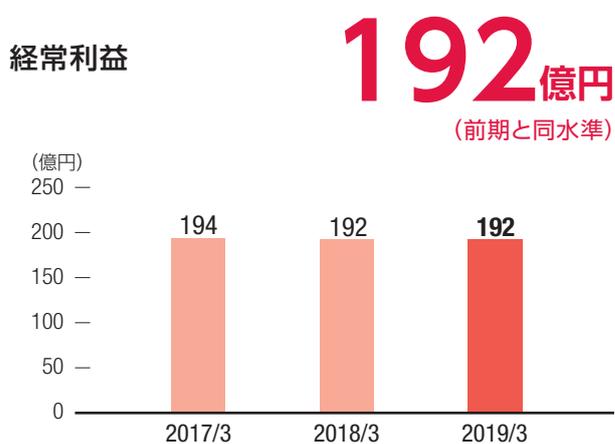
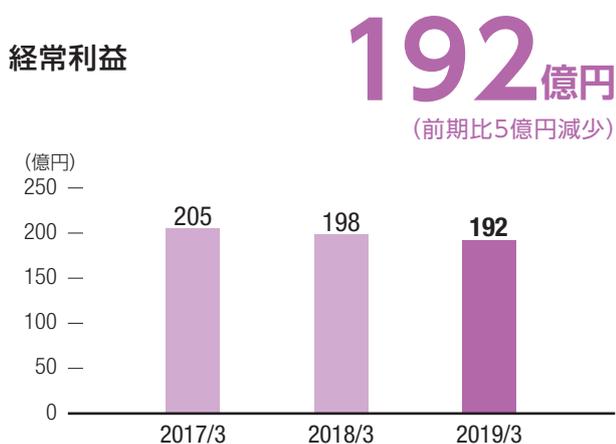
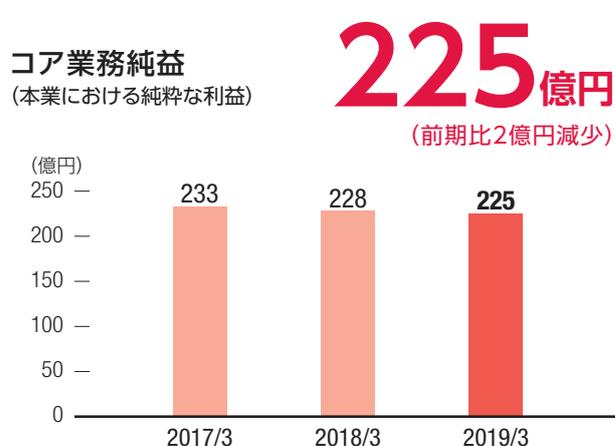
2018年度
決算の
ポイント
(連結)

- マイナス金利が続く厳しい環境のなか、積極的なリスクテイクによる貸出金の増加や非金利収益の増強に取り組んだほか、株式等売却益の増加などから、経常収益は前期比20億円の増収となりました。
- 経常費用は、米国債の売却損が増加したことや、貸倒引当金の算出基準を改定し、より手厚く将来に備えたことで与信費用が増加したことなどから、前期比26億円増加しました。
- その結果、経常利益は前期比5億円減益の192億円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比4億円減益の132億円となりました。

利益の状況(連結)



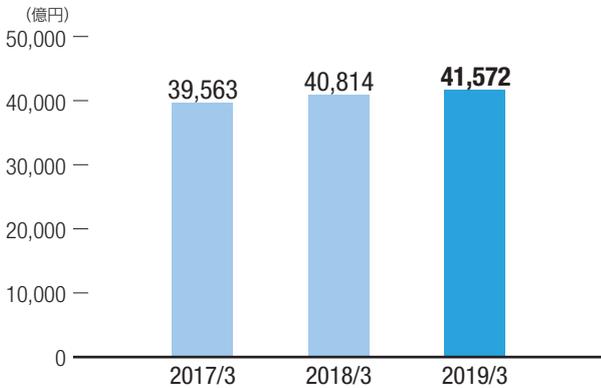
利益の状況(単体)



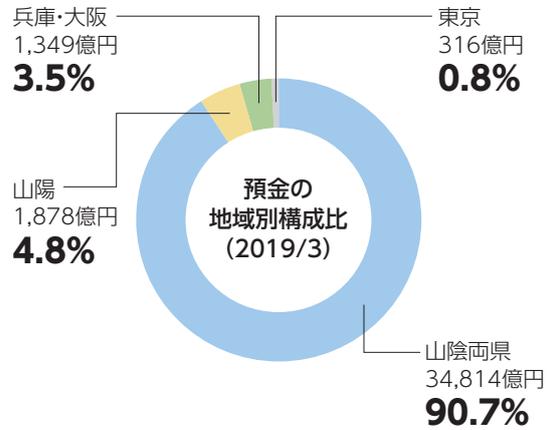
主要勘定の状況(単体)

預金等※(期末残高) ※預金+譲渡性預金

4兆1,572億円
(前期末比758億円増加)

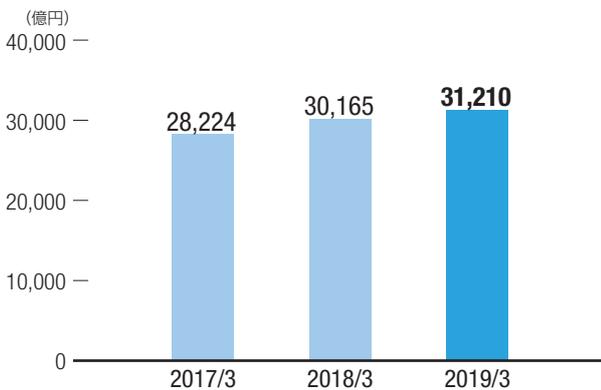


個人預金が増加した一方で、金融機関預金が減少したことを主に因に預金は減少しました。ただし、譲渡性預金を含む預金等期末残高は、前期末比758億円増加の4兆1,572億円となりました。

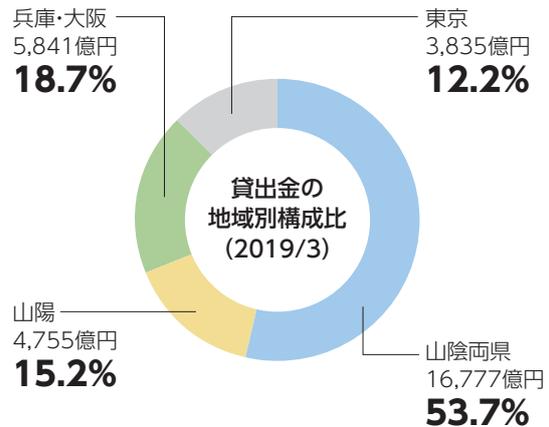


貸出金(期末残高)

3兆1,210億円
(前期末比1,045億円増加)

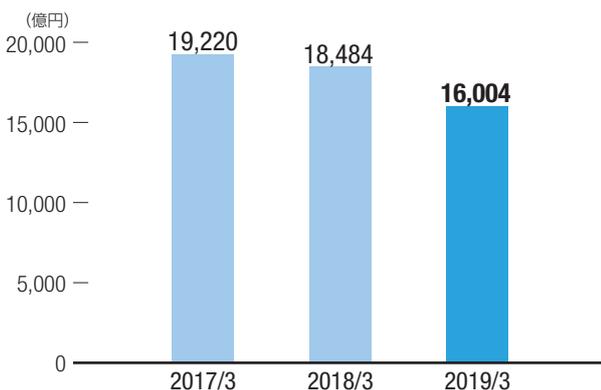


山陰両県を中心に住宅ローンなどの個人向け貸出が増加したことに加え、法人向け貸出も山陰両県のほか、山陽および兵庫・大阪地区でも増加したことなどから、前期末比1,045億円増加の3兆1,210億円となりました。

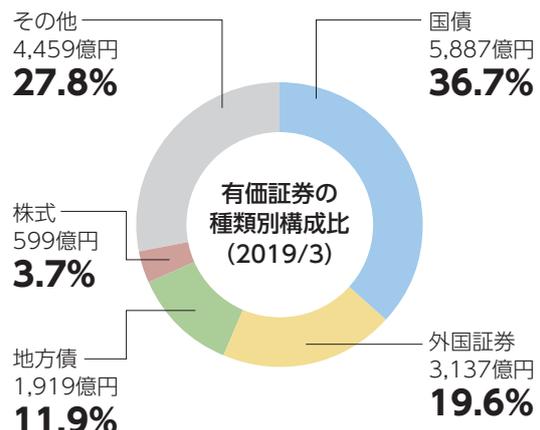


有価証券(期末残高)

1兆6,004億円
(前期末比2,480億円減少)



日本国債への再投資が難しいなかで、リスクを見極めながらポートフォリオの入れ替えを行った結果、前期末比2,480億円減少の1兆6,004億円となりました。



財務ハイライト

安全性・健全性の状況

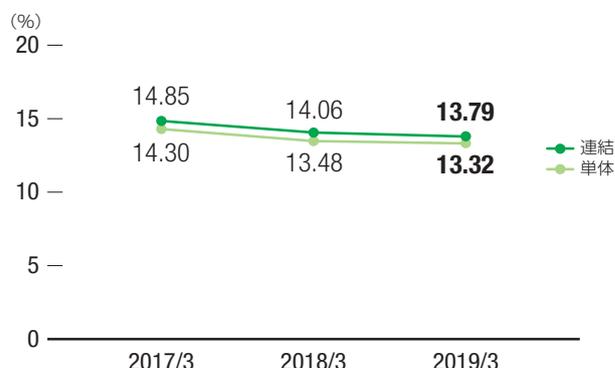
自己資本比率

単体ベース
(国内基準)

13.32%

●自己資本比率

銀行の健全性を測る代表的な指標の一つです。国内基準行は4%以上を維持することが求められています。



格付(単体): 格付機関から安全性に高い評価

A2

(長期預金格付)

ムーディーズ・ジャパン(株)(Moody's)

当行はムーディーズ・ジャパン(株)(Moody's)から長期預金格付「A2」を、(株)格付投資情報センター(R&I)から発行体格付「A+」を、(株)日本格付研究所(JCR)から長期発行体格付「AA-」の高い格付をそれぞれ取得しています。

A+

(発行体格付)

(株)格付投資情報センター(R&I)

●格付

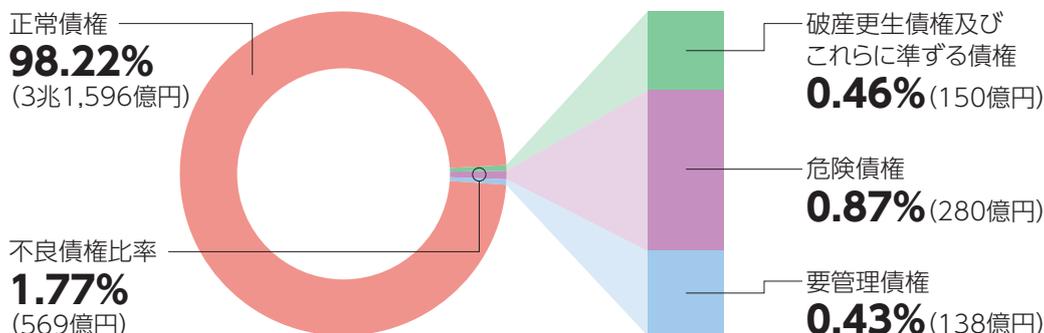
企業の信用度や安全性を示す代表的な指標で、預金や債券などの元利金が約定どおりに支払われるかどうかを公正な第三者機関が客観的に評価し、その程度を簡単な記号で表したものです。

AA-

(長期発行体格付)

(株)日本格付研究所(JCR)

不良債権の状況(単体)



担保・貸倒引当金によるカバー率

(単位:億円)

	金融再生法 開示債権(A)	保全額(B) (①+②)		カバー率 (B/A)	
		担保等による保全額①	貸倒引当金残高②		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	150	150	56	94	100.00%
危険債権	280	250	161	88	89.47%
要管理債権	138	53	25	28	38.83%
合計	569	455	243	212	79.91%